

中学校【美術科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 美術科における「主体的・対話的で深い学び」のとらえ

「主体的な学び」 ・・・	対象や事象を造形的な視点で捉え、自己の創出した主題や、対象の見方や感じ方を大切に する学び 学習活動の見通しをもち、また、学習したことを自ら振り返り次の学 びにつなげていく学び
「対話的な学び」 ・・・	創造活動を通して、説明し合ったり批評し合ったりして、自分の見方や感じ方を深め たりよさや美しさなどを幅広く味わったりする学び
「深い学び」 ・・・	造形的な見方・考え方を働かせ、主体的に学ぶ意欲や豊かな発想・構想、創造的な技 能、造形的なよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞の能力が質的に高まる学び

造形的な見方・考え方・・・ 表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	- 自分の感じたこと、途中の作品から、やりたいことを話す。 - 表現方法やポイントを理解する。 本時の課題を確認する。 - 本時の個人課題を決める。	生徒が自分の課題や学習状況を判断し、〔共通事項〕の視点から造形的な見方・考え方を働かせて、自ら表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択して表現したり、鑑賞したりする。 【主体的な学び】 - 生徒自身の体験や心の内面を深く見つめたり、身近な人や環境、さらには社会全体に目を向けたりしながら、一人一人が表したいもの（主題）を見付けさせる。 「自らの思いや願いとのずれ」「新しい表現や美しいもの、おもしろいものとの出会い」などから自分の課題や学習状況を判断させる。 - 教師や仲間の作品（表現、見方）と異なる新しいアイデアを出すこと（見方をする）のねうちを伝える。 - 例えば線の「太さ」「長さ」「方向」など、表現のための工夫のポイント（造形の要素）または鑑賞するための視点を示すとともに、生徒の活動レベルの示範を見せることで、自分の課題解決のための見通しをもたせる。 - 小学校からの学びの系統性を把握し、これまで学んだことが生かせるようにする。 - より質の高い目標をもたせ、失敗しても何度でもつくり直す経験をさせ、それを超える満足感と自信をもたせる。
	- 個人課題を追求する。 - 友達のアドバイスや様々な資料をもとに試行錯誤し、表現を深め、広めていく。 - 仲間の考えや表現のよさに気付く。 - さらなる個人追求をする。	生徒が自分の課題を解決するために、試したり、交流したりする。 【主体的な学び】 - 他の生徒の表現とは違う新しいアイデアで表現しているよさを机間指導の中で価値付け、紹介する。 「どのようにつくったのか（描いたのか）」を問い、価値付けることで、自分の表現を振り返るとともに、自信をもってさらなる追求に向かうことができるようにする。 【対話的な学び】 - 話し合う時間（批評会等）は、毎時間行うのではなく、題材を通して「さらに高いものを追求する時間」の前など必要な段階で行う。 - 班隊形で活動（表現）することで、必要に応じて仲間の表現を見たり、互いに教え合ったりすることができるようにする。 - 仲間の作品を見合う時間を設けるときは、「導入で示した工夫のポイント」や「主題と表現のつながり」という視点をもって鑑賞させる。 - 鑑賞では、あえて班に1枚の作品（カラーコピーしたもの）を配付し、自分の見つけたことをメモした付箋を貼っていくことで自然な交流や学び合いを生み出す。 【深い学び】 - 主題と表現とのつながりを問いかける。 - 鑑賞では、作品の見方を深めるために「見付けた事実をどんどん出す活動」から、「状況を想像する活動」へと発展させる。
	- 本時での自己の変容や苦労したこと、困ったことを振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	生徒が自分自身で自己の変容を実感するとともに、活動内容だけにとどまらず、造形的な視点でも振り返る。 【深い学び】【主体的な学び】 - デジタルカメラやスキャナで保存しておいた前時までの作品を画面に映し、本時終末での作品と比べながら振り返る（何をやったかだけでなく、「主題」に照らしながら、どのような感じになったかを感じ取る）ことで、表現の変容を確かめさせる。 - 主題を表現するためにさらにやりたいこと（次時の課題）を見付けさせる。 - 鑑賞では、何かを見付けるだけでなく、「作品全体からのイメージ」を感じ取ることも大切であることを確認する。